

ねじりはちまき

3月(やよい)になりました。啓蟄、春分の日があります。

3月1日春の全国火災予防運動7日までです。3日ひなまつりです。

5日啓蟄です。20日春分の日となっています。

暑さ寒さも彼岸までと言いますが、春分は本格的な春の到来を告げる日と考えられています。長かった夜が次第に短くなり、昼の時間が長くなる。少しずつ暖かさが増してきます。そして、1948年(昭和22年)からは『自然をたたえ生物をいつくしむ日』として国民の祝日に定められました。また、この日は彼岸の中日にあたります。春分の日は、1947年(昭和21年)までは春季皇霊祭と呼ばれ国家の祭日でした。この日は宮中の皇霊殿で天皇が歴代天皇の御霊を親しく祀る祭儀が行われていました。暖かな陽気になるだろうというのが春分です。まだまだ寒い日はあります。お体には十分気を付けて下さい。

幸田 常一

<会社近況>

3月に入りました。日ごとに暖かさを感じられるようになってきました。土手のふきのとうも顔を出し、玄関先のチューリップもようやく土の中から出てきました。季節は間違いなく春に近づいていますね。日中暖かくても朝晩はまだまだ寒いです。皆様、どうかお身体大切にお過ごし下さい。

須賀川市の現場が完成し、事務所内では図面や見積書の作成、書類の作成な

どしています。また、先日より本宮市の現場で住宅修繕工事を開始させていただきました。皆様方には大変お世話になります。

さて、長いことねじりはちまきに寄稿いただいております

『山旅遊人』さんですが、なんと今回で100号を迎えました。

祝！！100号！

『夢を見続ける男』さんにも長いことお世話になっております。皆様からの感想、ご意見などお寄せいただければ大変嬉しく思います。

3月 食べる♡

ふきのとう、タラの芽、セリ、うど、こしあぶらなど早春の山菜などが顔を出し始めましたね。早春の山菜には冬の間体内に蓄積された脂肪や老廃物を排出する効果があるといわれています。てんぷらにして食べたり、うどは酢味噌和えにしてサッパリ食すのも定番です。春の恵みを頂いて、なるべく元気に日々を過ごしたいものですね。

令和3年3月5日発行

有限会社 幸田建設

<発行責任者> 幸田久美

〒969-1204

本宮市糠沢字八幡 1-1

電話 0243-44-3816

<後記> 陽気が暖かくなり、過ごし

やすくなりました。卒業の季節です。

皆さんは卒業したいことありますでし

でしょうか。私は、甘いものから卒業し

たいです。(切実)

ほしの

脱炭素宣言とはどういうこと

菅首相が首相に就任して、初めての国会（昨年10月26日）で行った所信表明演説の中で、「2050年までに温室効果ガス排出を実質ゼロにする」との「脱炭素宣言」をした。安倍前首相の政策を継承するとしていた菅首相にしては唐突な感じがしたが、実はアメリカ大統領選挙で民主党のバイデン候補が優勢との情勢を睨んでの判断があったのではないかと思う。現職のトランプ大統領は「パリ協定」からの離脱通告をしていたが、バイデン候補は当選したら「パリ協定」への復帰を明確にしている。それによって全世界的に2050年に向けて「脱炭素」の動きが一層加速されることが確実視されているのだ。

この脱炭素の動きは、2015年12月にCOP21で採択された「パリ協定」に基づく。パリ協定は、2020年以降の地球温暖化対策の国際的な枠組みである。その狙いは、世界の平均気温上昇を産業革命前（250年前）と比較して2℃より充分低いレベル、1.5℃に抑える努力を追求することを目的としている。では、現在の世界平均気温はどのような状況か。1880年～2012年の132年間で0.85℃上昇している。直近では1℃を上回っていると考えられる。では、今後の予測、今世紀末はどうなるか。最も厳しい温暖化対策が取られた場合で0.3～1.7℃の上昇、有効な対策が取られなかった場合で2.6～4.8℃上昇すると予測されている。もし2℃を超える上昇があったならば、様々な面で深刻な影響が出ることが予測され（今でも影響が現れつつある）ている。この稿では温暖化の影響については触れないこととし、「脱炭素社会の実現」のためにどのような方策がとられるのか、政府の「実行計画」のうち身近な分野についていくつか見てみたい。

(注)①なぜ2050年までか：パリ協定で全世界の気温上昇を1.5℃に抑えるためには2050年までに温室効果ガス量を実質ゼロにする必要があるとされている。

②実質ゼロとは：温室効果ガス排出量をゼロにするというのではなく、森林・カーボンリサイクル等の吸収量と相殺してゼロにするということである。

③政府の「実行計画」は、脱炭素社会の実現が同時に経済成長に寄与するものであるとの視点から「グリーン成長戦略」と銘打っている。

先ず最近マスコミを賑わしたのは、ガソリン車新規販売禁止の動きである。外国では、イギリスが2035年までにとしていたのを、さらに5年前倒しして2030年までとした。今のところ世界で一番早い時期である。フランスも時期を表明しているが、2040年と遅い設定である。中国も国として2035年を目途に進めることを表明している。またアメリカも新政権になって2035年までに禁止する旨表明したところである。こういう中で日本も2030年代半ばまでに新規販売を禁止するとの方針を打ち出したのわけである。

(注)パリ協定では、2035年までに温室効果ガス排出量を45%削減するとしている。ではガソリン車の販売を禁止して、どんな車に切り替えようとするのか。いうまでもなく電動車（電気自動車・燃料電池車・ハイブリッド車）である。そして2050年までにガソリン車はゼロになることを目指すということか。この場合注視しなければならないのは、充電の電力供給のことである。日本では総電力のうち化石燃料使用の火力の割合が大きい。この火力の電力を充電に使えば、電気自動車に切り替えてもCO2排出量は40%ほどしか削減されないという。そこでいかに火力発電の割合を減らしていくかが課題（既に燃焼効率の悪い火発の廃止について決定済み）になるし、同じ火力発電でもアンモニア活用の火力発電（石炭火発に対しCO2が60%削減）の実用化も急がれる。水素に対する期待（火発や自動車）も大きい。一方、フランスのように原発（CO2排出なし）への依存度を高める選択肢はありえない。やはり、イノベーションを伴った再生可能エネルギーの開発が益々重要になって来ると思われる。

実行計画ではエネルギー全体の5~6割に持っていきたいとしている。それにしても、あと30年で本当にどこまで進むのだろうか、その点気にはなる。また、電気自動車自体についても新リチウムイオン電池の開発や充電インフラの整備がどこまで進むか課題も抱えている。それと電気自動車の価格もどうなるものか、安くなってほしいと思う。

ここまで書いてきて気が付くのは、脱炭素社会の実現に向けては、イノベーション（技術革新）とコスト面の課題が山積しているということだ。再生可能エネルギーでいえば、洋上風力発電もかなり期待されているが、これもご承知の通り、福島県沖で行われていた実証実験の洋上風力発電は中止となっているのが現状だ。国が本県を炭素ゼロに向けてのモデル県にしようとしていると聞いているが、誠に残念なことである。

以上は、炭素の排出量を減らすという観点からの対策をみてきたが、次は排出された炭素を固定したり、リサイクルして減らす対策の方を見てみたい。固定する技術として我々が知っているのは、植林や緑化、海洋性植物によるものである。その外火力発電からの排ガスから炭素を分離・回収して地中に固定する実証実験が行われているという。地中固定の外海中隔離という方法も考えられているということだ。一方リサイクルだが、排ガス中の炭素を資源として捉え、これを分離・回収し、多様な水素化合物として再利用しようとするものである。まだまだこれからで、イノベーションが待たれる。実用化の目途がついているのは、コンクリート製品に炭素を吸収させる方法である。また、小さな生物（微細藻類）を使って人工光合成を行い、バイオ燃料とすることも考えられているという。

実行計画とは別の動きもでてきた。政府が「カーボンプライシング」の検討に入ったということだ。これは、CO₂に価格をつけ、企業や家庭に排出量に応じてコストを負担してもらう仕組みである。具体的には炭素税（石油や石炭には実施済み）や排出量取引制度（企業に排出量の上限を設け、過不足分を企業間で売り買いできる仕組み）が考えられる。この制度は、コスト負担してもらうことで、炭素排出を抑制する効果を狙ったものである。

それと国民の「暮らし」の中でやってもらいたいと期待してる点を挙げると、家庭で照明についてはLEDで節電してもらい、また太陽光発電の設備をし、かつ車を電気自動車にしてもらおうと充電＝蓄電ができ、自然災害による停電にも備えられるというわけである。

最後に触れておきたいのは、地球温暖化対策のように長期（30年）に亘るテーマについて、持続的に対応が可能なのか、どうかである。このような国際取り決めは今までなかったであろう。各国の政権も交替するし、我々の世代交代もあるし、どうなるものか気がかりではある。そういう中で、ひとつ言えることは「後々の世代のこと」をどれだけ真剣に考えられるのか、そのために必要な行動とコスト負担をきちんとできるのか、が問われているように思う。何か生きるうえでの価値観の転換が求められているようだ。小生も余生と呼ぶべきその期間に何ができるものか考えておきたいと思う。皆さんはどうでしょうか。今回は重いテーマであったが、これで終わりとする。

メタンガスについてはどうなっているのか

それにしても気になるのは、CO₂より温室効果が大なるメタンガス

安達太良山の大展望台 大名倉山

自分が本紙「ねじりはちまき」に寄稿を始めたのは平成 21 (2009) 年 2 月。途中休みを挟んで今回で 100 号となった。100 号に相応しい山行として本宮市と大玉村にまたがる地元の名峰「大名倉山 (おおなぐらやま・さん)」(575.8m) を選んだ。読者の皆さんにぜひとも登って欲しい。

- ① 国道 4 号線、本宮市役所入口交差点を起点とする。西に進み 1km 程で左折して安達太良サービスエリア北側で東北道の下をくぐり県道 304 号線 (大橋・五百川停車場線) に合流しさらに西に進む。
- ② 「小姓内ポケットパーク入口」の標識の左側に「名倉山登山道→」の縦書きの幅 25 cm 縦 75 cm の標識があり、直進する。ここには大きな看板が立っていて、ここからの安達太良山の姿も一見の価値がある。
- ③ しばらく行くと左側に小姓内の集落に至る分岐のところにも「名倉山登山道←」の標識があり、集落に入っていく。
- ④ 道なりに進み「→名倉山登山道→」の標識を越えていくとカーブミラーの柱に「名倉山登山道←」の標識が取付けてあり左側の道に入っていく。
- ⑤ 車が交差できない狭い未舗装の林道を進むと、砂利が敷かれた駐車場に至る。
- ⑥ 「名倉山登山口」の標識と概念図の絵の看板、黄色の登山者カードの箱がある。

2 月 25 日 (木) 13:50、妻と二人で登山口発。かつて名倉山が採石場だった時の未舗装の道路を歩いていく。幅が広く傾斜も緩やかな道の真ん中が人の通り道になっている。雪解けの水がたまったところでは凍っている。二人の熟年男女がフキノトウを採っていた。まだ今年は時期が早いとのこと。自分たちもゆっくりフキノトウを探しながら歩いていく。

崖になっている採石場を過ぎると近年整備された登山道になる。ジグザグの道は歩きやすく、急登のところは階段状になっていてステンレス製のパイプも設置されている。登り切ったところで本宮市青田側からの道に合流する。

合流地点から 10 分ほどの登りで、ベンチや看板のある小広い山頂に 14:30 着。普通に歩けば駐車場から 30 分くらいだろう。北西には眼下の“大いなる田舎”大玉村=いぐね (※2) のある風景=の先に裾を広げた秀麗な安達太良連峰の展望が素晴らしい。東側には阿武隈山系の山々が見渡せる 14:50 下山開始、15:15 駐車場着。ぜひ天気の良い日に登ってみてください。

フキノトウのてんぷら、フキノトウみそ、季節を味わう。

- (※1) 本宮市青田日記沢の学校給食センターと蛇の鼻遊楽園 (西側・裏側) の間の道 (蛇の鼻・矢沢林道) を西進し、途中アンテナの管理用道路に右折しアンテナ手前に数台止められる。

- (※2) いぐね：家の周りに植えてある防風のための林。(下線部分、写真)

